

1. 基本情報

評価対象年度 (令和4 年度)

施策コード	423		施策名	生活環境の保全
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)		
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち		
主担当部	市民環境部		主担当課	環境課

2. 施策の方向

10年後の姿	誰もが環境保全に関する知識を持ち、省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの利用が促進されており、環境にやさしい社会がつけられています。			
施策の方向性	1	省エネルギー活動や再生可能エネルギーの普及を促進します		
	2	大気汚染・有害化学物質・騒音などの公害から生活環境を守ります		
	3	環境に対する問題意識を啓発するため、情報や学習の場を提供します		

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和4年度決算額
車両管理事業	1	総務課 未来創造課 環境課	16,191
飼い主のいない猫対策事業	2	環境課	94
環境保全啓発事業	1、2、3	環境課	6,166
総事業費(施策の合計)			22,451

4. まちづくり指標

指標情報				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
①	名称	市の事務事業における温室効果ガスの排出量(CO2排出量)削減率		目標値	15.2	20.0	22.9	25.7	28.6	
	説明	平成27年度排出量を基準として5年間で目標値達成を目指す	単位 %	実績値	4.3	19.3				
	抽出方法	所管課統計		達成率	28.3%	96.5%				
②	名称	日頃から地域環境に配慮している人の割合		目標値	70.0	70.0	80.0	80.0	80.0	
	説明	—		単位 %	実績値	76.5(※)	76.5(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	109.3%	109.3%				

※ ②抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和4年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	<ul style="list-style-type: none"> ●温室効果ガスの排出量は、市が所有する施設で使用する電力の供給先を見直す事や、電動自動車1台、水素自動車1台導入すると共に公用車所有台数の削減を実施し、7台の削減ができた。 ●「きよせの環境・川まつり」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEB開催とし、企業の環境保全活動の紹介に加え、環境をテーマとした川柳コンテストを実施し、環境保全への意識啓発を行った。川柳コンテストは、初めてのWEB募集であったが、小学生からは約50句の応募があった。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和4年度からの変更点	新型コロナウイルス感染症に加えロシア・ウクライナ情勢に伴う原油高騰やガスの供給不足等により、電力の確保が課題となっており、光熱水費も大きく上昇していることから、省エネルギー化や既存エネルギーの再生可能エネルギーへの転換が求められている。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	<p>施策を進める上での課題</p> <p>ゼロカーボンシティを目指すあたり、市のみならず市民や民間事業者も含めた取り組みが必要である。</p> <p>課題に対する令和6年度以降の取組</p> <p>令和5年度に定めた清瀬市温暖化対策実行計画(区域施策編)の取り組みを遅滞なく進め、市全体で温室効果ガスの削減を進めていく。</p>
②	<p>施策を進める上での課題</p> <p>市民に対する環境保全への意識啓発を継続する必要がある。</p> <p>課題に対する令和6年度以降の取組</p> <p>「きよせの環境・川まつり」を実行委員会が主体となることで、環境保全活動の意識啓発につながり、市民の環境に関する知識及び意識向上を図る。</p>